

平成 24 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『手をつなごう 未来へ』を合言葉に、子どもたち一人ひとりの自立と社会参加をめざし、学校・保護者・関係機関の連携を図りながら充実した教育活動が展開される明るく元気な学校をめざします

- (1) 児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた教育活動が展開する学校
- (2) 自立・社会参加に向け保護者や関係機関との連携体制がとれている実効性のある学校
- (3) 地域でのセンター的役割も発揮できる高い専門性が集積された学校
- (4) 毎日、明るく元気に学校生活を送れる健康で安全・安心な学校

2 中期的目標

1 保護者との連携を強化し、一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた教育活動の展開

- (1) 「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の充実、活用、実効性を高めるとともに、一人ひとりの障がいの程度や内容、到達度を踏まえた学習指導プログラム及び教材等を活用する。
- (2) 「学校教育自己診断」を毎年実施し、課題の整理、改善に努め、教育の内容と質の向上を図る。
※保護者の提出率が平成 23 年度 74%であり、平成 26 年度には 85%とする。

2 自立・社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実

- (1) それぞれの発達段階に応じたキャリア教育プログラムの研究・開発・実践を通じ、推進する。
- (2) 小学部・中学部教員の進路指導に関する知識を高め、関係機関との連携を推進し、進路選択肢の拡充を図る。
※平成 23 年度の教職員向け学校教育自己診断におけるキャリア教育への取組み状況が 80%であり、平成 26 年度には 90%とする。
- (3) 保護者へのキャリア教育や進路指導に係る情報提供の充実を図り、将来的な進路選択に向けて支援するとともに推進する。
※平成 23 年度の保護者向け学校教育自己診断におけるキャリア教育の認識度 77%であり、平成 26 年度には 85%以上とする。

3 センターの機能の充実・発揮と教員の専門性の向上

- (1) コーディネーターによる地域支援の充実を図るとともに障がい者理解啓発及び交流教育を推進する。
※平成 23 年度の学校教育自己診断における交流教育の実施状況に対する肯定率が、保護者・教職員共 65%であり、今後は障がい者理解を含めた交流教育の意義を周知し、毎年 5%以上の増加をめざし、平成 26 年度には 80%以上とする。特に、居住地校交流では、平成 23 年度の 20 名から、平成 26 年度には倍増をめざす。
- (2) 学校ホームページを充実し、教材の紹介の発信等、地域の小学校・中学校の支援教育をサポートする。
※平成 23 年度には再構築を行い、今後支援教育のサポート資料の充実をめざす。
- (3) 校内研修の充実や ICT の活用等を工夫し、教育内容の質の向上を図るとともに教員のノウハウの共有化・蓄積化を促進し、専門性の向上を図る。
※ICT 機器の活用した教育活動の充実は、平成 23 年度の教職員向け学校教育自己診断では 66%であり、平成 26 年度には 80%以上とする。また、専門性向上の研修の充実では、85%が肯定的意見であったが、更なる充実を追求する。
- (4) 特別支援教育に係る免許保有率は、平成 23 年度 50%であり、平成 26 年度には 70%をめざす。

4 安全・安心な学校づくりの推進

- (1) 一人ひとりの人権を尊重し、一層の安全・安心な学校づくりの推進
※平成 23 年度の保護者向け学校教育自己診断における不審者対応等の満足度は 96%であり、更に機能的なものへと進化させる。
- (2) 安全教育や健康教育（食育を含む）の指導法の開発及びその実践の進化
※平成 23 年度の保護者向け学校教育自己診断における安全教育や健康教育の満足度は 90%を超えているが、施設・設備の安全や美化の満足度では、60%であり、学校の老朽化はあるが、毎年 5%以上の増加をめざし、平成 26 年度には 80%とする。
- (3) 危機管理マニュアルを毎年検証し、安全で安心な学校づくりを推進する。
※平成 23 年度から取り組んでいるヒヤリハット事例集を平成 24 年度中に作成し、今後内容の充実を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 24 年 1 1 月 実施分]	学校協議会からの意見 * 【 】内は具体を示す
<p>1 回収率について (%は肯定的意見が占める割合)</p> <p>★保護者は前年より 5%アップ【79%】保護者へ繰り返し協力依頼をした成果が出た。</p> <p>★教職員は 6%アップ【99%】参画意識の高まりと捉える。(◎)</p> <p>2 教育活動を含めた家庭との共通項目について(24項目)</p> <p>★19項目が 85%を上回る結果であった。特に、日々の生徒指導学習評価・健康教育・安全教育・家庭連携・不審者対応(危機管理)等は昨年同様に 90%を上回った。</p> <p>★昨年否定的意見が 30%以上あった校内の清掃・施設設備の改善についても 25%に減った。PTA と連携した清掃活動の推進が評価に見られる。次年度も引き続き保護者と連携し取り組みたい。(◎)</p> <p>3 教職員の学校運営に関する項目について(26項目)</p> <p>★消防や警察と連携した訓練の充実【90%】</p> <p>★行方不明対策や校内巡視の整備【91%】等の高い評価に加え、児童生徒会活動の活性化は 12%アップの 90%と大幅に上がった。また、労働衛生環境や条件の改善・予算執行・キャリア教育研修等への評価にも改善が見られる。但し、組織マネジメントへの課題が今年度も複数見られた点については、運営委員会を中心に全校的検討課題として捉え取り組みたい。(△)</p>	<p>第 1 回【平成 24 年 7 月 13 日】</p> <p>★学校協議会実施要項について【より保護者との連携が必要である】</p> <p>★学校経営計画の紹介と各学部の状況について【生徒増、障がいの多様性、進路開拓等、課題は多いが個別支援の充実に取り組んでほしい】</p> <p>★平成 25 年度使用教科書選定について【児童生徒の実態に応じた選定がなされている】</p> <p>★居住地校交流について【昨年の実績を踏まえ、より関係機関との連携を深めるべき】</p> <p>第 2 回【平成 24 年 11 月 27 日】</p> <p>★学校協議会委託・保護者からの意見等について【現時点で保護者からの投稿はなかった】</p> <p>★平成 24 年度学校教育自己診断進捗状況について【回収結果をどう反映させるか】</p> <p>★居住地校交流について【定期的・継続的な取り組みが必要である】</p> <p>★授業評価について【提出率を高める工夫が必要である】</p> <p>第 3 回【平成 25 年 2 月 26 日】</p> <p>★平成 24 年度学校評価(案)について</p> <p>【保護者回答結果の達成状況を含め、円滑な学校運営や活性化に向けた取組は高く評価する】</p> <p>★平成 25 年度学校経営計画(案)について</p> <p>【校内研修の重要性と持ち方、学校運営に関する情報の提供や公開の推進について提言があった】</p> <p>★平成 24 年度学校教育自己診断結果報告について</p> <p>【教職員 99%回収率や保護者回答結果の 24 項目中 21 項目の達成状況 88%は高く評価する】</p> <p>★学校協議会委託・保護者からの意見等について【現時点で保護者からの投稿はなかった】</p>

府立八尾支援学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
教育的ニーズを踏まえた教育活動の充実・展開	<p>(1) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実、活用、実効性を高めるとともに、一人ひとりの障がい程度や内容、到達度を踏まえた学習指導プログラム等を活用する。</p> <p>ア 保護者との連携の強化</p> <p>イ 一人ひとりの課題に応じた教育活動の充実</p> <p>ウ 個々の児童生徒に応じた学習指導プログラム及び教材等の活用</p>	<p>ア・児童生徒の実態把握と家庭との情報共有を図るため、学年通信（小学部：毎週、中学部：月に1回）や学級通信（随時）、連絡帳（毎日）等で保護者への情報提供を図る。</p> <p>・昨年度の家庭訪問は、限られた学年（小学部1・4年、中学部1年）で実施していたが、全学年5月に行う。また、昨年度3学期に取組んだ下校指導（自宅からバス停までの通学路）を併せて行う。</p> <p>イ・5月の家庭訪問で個々の児童生徒の課題を保護者と共通認識し、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実を図る。特に、福祉医療関係人材活用事業（ST）を平成23年度の43名以上が相談できる体制を組む。</p> <p>ウ・学習指導プログラム等の活用のための教材交流会や授業見学等の研修会を充実させる。</p> <p>・ALTを活用した国際理解教育及び授業アンケート等を充実させ、授業力を高める。</p>	<p>ア・発行回数の把握及び保護者向け学校教育自己診断結果における家庭との連携に関して肯定率98%（平成23年度95%）</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断結果における子ども様子に関する肯定率90%以上（平成23年度86%）</p> <p>イ・保護者向け学校教育自己診断結果における個々の指導・支援に関する肯定率90%以上（平成23年度87%）</p> <p>ウ・保護者向け学校教育自己診断結果における教科学習に関する肯定率90%以上（平成23年度85%）</p> <p>・平成23年度の倍増をめざす。</p>	<p>アー1★家庭との情報共有は昨年を上回る96%であったが達成にはわずかに至らなかった。また、各学部における学年・学級通信等の発行数は昨年並みであったが、連絡帳以外での電話や訪問というより丁寧な対応を呼びかけてきた教職員の自己診断評価が98%に達した点は評価したい。次年度は懇談会の持ち方等の検討をはかりながら中身の充実をめざしたい。（△）</p> <p>アー2★91%であった。残りの項目についてもすべて昨年を上回る結果であった。全校を対象とする家庭訪問の実施や下校指導に取組み、保護者との連携強化を図った成果と捉えたい。次年度もこの取り組みを継続させたい。（◎）</p> <p>イ★保護者の適切な指導・支援評価はいずれも88%でわずかに達成に至らなかったが、福祉医療関係人材活用事業では昨年を大幅に上回る回数に取り組み、個別支援への専門的スキルを高めることができたことや保護者と共有できた意義は大きかった。次年度に向け医療等との連携を深める取り組みとして主治医訪問等も家庭訪問に加え取り組みたい。（△）</p> <p>ウ★87%であった。達成には至らなかったが、授業アンケートを活用した教員へのフィードバックが、保護者の自己診断「発達段階や課題にあった指導・支援」の否定的評価の減少に伺える。また、教職員では今年度の大きな取り組みである高等部との合同教材交流会の成果や学部間授業交流の取り組みが評価結果に伺える。次年度も研修の充実を図りながら引き続き90%以上をめざしたい（△）</p> <p>★ALTによる国際理解教育においては昨年の倍の取組を行った。また、次年度は特に、保護者への授業アンケート協力の呼びかけや実施方向の改善や工夫を図りたい（○）</p>
キャリア教育・進路指導の充実	<p>(1) キャリア教育プログラムの研究・推進</p> <p>(2) キャリア教育の意義及び必要性の啓発</p> <p>ア 教職員へのキャリア教育の意義及び必要性の意識向上</p> <p>イ 保護者へのキャリア教育の啓発</p>	<p>(1) 発達段階に応じたキャリア教育プログラム作成のための検討会議を年度当初より運営委員会で検討し、研究・推進する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・進路指導部を中心に、小中学部の児童生徒に必要なキャリア教育の研修を学期に1回行い、教職員の意識改革を図る。</p> <p>・本校独自の進路だよりの充実を図る。</p>	<p>(1) 検討会議の設置・運営及び進捗状況の評価する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・教職員向け学校教育自己診断結果におけるキャリア教育の充実率90%以上（平成23年度81%）</p> <p>・平成23年度は5回発行したが、7回をめざす。</p>	<p>(1) ★進路指導部による小中9年間のキャリア教育プログラム（案）を構築した。引き続き校内での議論を深め充実を図る。また、次年度以降、高等部と連携した12年間のプログラム構築に取り組みたい。（○）</p> <p>(2)</p> <p>アー1★85%であった。目標には届かなかったが高等部の進路担当や外部進路先から講師を招いた研修等の実践評価として推測できる。次年度も継続したい。（△）</p> <p>★昨年を上回る発行（10回）に取り組んだ。また、保護者向け進路説明会等併せた取り組みが自己診断の94%に伺える。次年度もさらに充実を図りたい。（◎）</p>
センター的機能の充実と専門性の向上	<p>(1) 障がい者理解啓発及び交流教育を推進する。</p> <p>ア 教職員の意識高揚</p> <p>イ 居住地校交流の拡大・充実</p> <p>ウ 公開授業の実現</p> <p>(2) 学校ホームページの充実</p> <p>ア 地域への支援となる教材発信の充実</p> <p>(3) 教職員の専門性の向上を図る</p> <p>ア ICT活用の充実</p> <p>イ 教員の支援教育の専門性向上及びOJTを活用した人材育成</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教職員の交流及び共同学習への意識を高める研修を研究部と連携し充実させる。</p> <p>イ・居住地校交流は6月に希望調査し、平成23年度の20名の倍増をめざすとともに、1校での複数回の交流を実現する。</p> <p>ウ・これまで取組んでいない地域の小中学校教員を対象とした公開授業を実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・ホームページの再構築と小中学校への支援教育のサポートとして、発達段階に応じた教材等の発信を充実させる。</p> <p>(3)</p> <p>ア・ICT機器を活用した教育活動の充実のため、タブレット型PCを購入し、知的障がい及び発達障がい生徒の授業充実を図る。</p> <p>イ・経験の少ない教員及び希望者を対象にした研修の充実を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教職員向け学校教育自己診断結果における交流教育の充実率80%以上（平成23年度63%）</p> <p>イ・平成23年度の20名の倍増をめざし、学期に1回の交流を実現する。</p> <p>ウ・今年度は1回実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・教材等の発信量が年度当初の倍増をめざす。</p> <p>(3)</p> <p>ア・タブレット型PCの活用状況及び授業計画・報告を受け、生徒アンケートを行う。</p> <p>イ・受講者数の増加・充実をめざす。（平成23年度25名が20回研修を受講）</p>	<p>(1)</p> <p>ア★前年とほぼ同じ64%であった。特に、居住地校交流を実施した児童生徒数が1割の現状から全校的な共有理解を高めるまでには至らなかった。次年度に向けた検証を踏まえ再度、方向性や意義の再確認を図りたい。（△）</p> <p>イ★前年より3名増の23名が実施した。倍増には至らなかったが、学期1回実施は達成し複数回参加者が8名と増え一定の成果が得られた。引き続き、市教委・受け入れ校との連携を図り取り組みたい。（○）</p> <p>ウ★授業力向上プラン事業を活用し2年目の教員やベテラン教員の意識改革による刺激を共有できた。（○）その他、地域の幼・小・中学校への巡回相談60件、ケース会議、講師派遣24件に取り組んだ。</p> <p>(2)</p> <p>ア★小・中・高・教材ページの掲載に取り組んだ。但し、HPの再構築は完了したが容量やPC環境等の新たな課題が判明した。次年度、再度作成し直し早々に移行する。（△）</p> <p>(3)</p> <p>ア★PCによる教材作成とタブレット型PCでのアプリや環境整備・授業に向けた試験活用に取り組んだ。次年度はPCによるビデオ教材の充実とデータベース化を図りたい。また、タブレット型PCは教科指導以外の自立活動における視覚支援や個別指導への活用を図りたい。（○）</p> <p>イ★対象別研修を含め年間25回を超える校内研修や支援部ニュースの発行6回に取り組んだ。特に、夏季休暇中の地域の小中学校教員や市教委に呼びかけた公開講座は好評で281名の参加者に加え、次年度への継続要望もあった。（◎）</p>
安全・安心な学校づくりの推進	<p>(1) 安全教育や健康教育（食育を含む）の指導法の進化</p> <p>ア 保護者向け情報発信の充実</p> <p>イ 施設・設備の安全性及び美化の充実</p> <p>(2) 安全で安心な学校づくりの推進</p> <p>ア 危機管理マニュアルの検証</p> <p>イ ヒヤリハット事例集の作成</p>	<p>(1)</p> <p>ア・避難訓練及び交通安全教室などの安全教育指導法の研修及び保健だより、食育だよりを充実する。</p> <p>イ・毎月実施している安全点検の充実及び老朽化した校舎内の清掃・美化を強化する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・危機管理マニュアルや不審者対応マニュアルなどの検証と有効活用できる冊子にするなど整理する。</p> <p>イ・昨年度収集したヒヤリハット報告書を集約し、教員研修の資料として活用する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・訓練前の教員研修を必修とする。また、各だよりを増加発行する。（平成23年度11回の発行を15回発行）</p> <p>イ・保護者向け学校教育自己診断結果における校舎内の美化の満足度を70%以上（平成23年度60%）</p> <p>(2)</p> <p>ア・関係分掌でマニュアル集を作成する。</p> <p>イ・平成24年度で事例集を完成する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア★学部単位での教員研修を踏まえ訓練の充実を図った。各便りの保護者評価は昨年同様に97%の高評価を得た。特に、食育の推進における食育だよりは12回発行した。また、児童生徒による給食の校内放送は保護者・教職員にも好評であった。次年度も継続したい。（○）</p> <p>イ★69%であった。PTAと連携した参観後の清掃活動や毎月の安全点検の徹底・設備改善が肯定的評価を高めたと推測する。次年度以降予定される耐震や大規模改修を踏まえながら計画的整備に取り組みたい。（○）</p> <p>(2)</p> <p>ア★マニュアルの実効性を高めるため、特に震災時の非常食対応（試食）についてはPTAとも連携し取り組んだ。次年度への活用を図りたい。（○）</p> <p>イ★ヒヤリハット集に基づいた校内研修を次年度始めに実施する。また、適宜事例の追加を図る。年度末に活用の成果を全校的に検証したい。（○）</p>